

目次

	(頁)
1. はじめに	1
2. 「第3回みえ県民意識調査」の概要	2
3. 「幸福感」の推移	3
4. 会話の程度	4
5. 地域活動への参加状況と意欲	6
6. 地域や社会の状況についての実感	8
7. 女性就労についての考え方	10
8. 希望する就業時間	12
9. 父親の育児参画についての考え方	13
10. 「結婚」と「子どもの数」	14

1. はじめに

「幸福実感日本一」をめざす三重県では、県民の皆さんの「幸福実感」を把握し、県政運営に活用するために、「みえ県民意識調査」をこれまでに3回実施してきた。

第1回から第3回までの推移が見えてきたことに加え、毎回時代の変化を捉えて行ってきた質問への回答からも、様々なものが読み取れる。

【論点】

第3回みえ県民意識調査の結果※から見えてくる課題の指摘、課題への対応策、これから県が目指すべき方向性等について、県の取り組む幅広い分野に関わる大局的な議論をいただきたい。

※今回の議題資料は、4/9に公表された結果速報の内容によっています。

結果数値の差などに言及した部分について、統計的有意性は未確認ですので、ご了承ください。
現在、属性クロス集計等を含め、より詳細な結果分析を進めており、今夏に結果を公表予定です。

2. 「第3回 みえ県民意識調査」の概要

○目的

県民の皆さんの「幸福実感」を把握し、県政運営に活用するため、毎年実施している。

○調査の概要

調査地域	三重県全域
調査対象	県内居住の20歳以上の男女
標本数	10,000人
実回収総数	5,467人（回収率：54.7%）
有効回答数	5,456人（有効回答率：54.6%[第1回調査：57.1%、第2回調査：54.3%]）
無効回答数	11人
抽出方法	<ul style="list-style-type: none"> 各市町の選挙人名簿を使用した等間隔無作為抽出法 標本数は各市町の選挙人名簿登録者数の比率によって割り当て
調査方法	郵送による発送・回収
調査期間	平成26年1月～同年2月

○集計する際の基本的な属性

(1)地域 (2)性別 (3)年齢[10歳階級] (4)主な職業 (5)配偶関係 (6)世帯類型 (7)世帯収入
 ※(7)について、第2回調査では本人収入を質問している。

○調査項目(質問総数:53問)

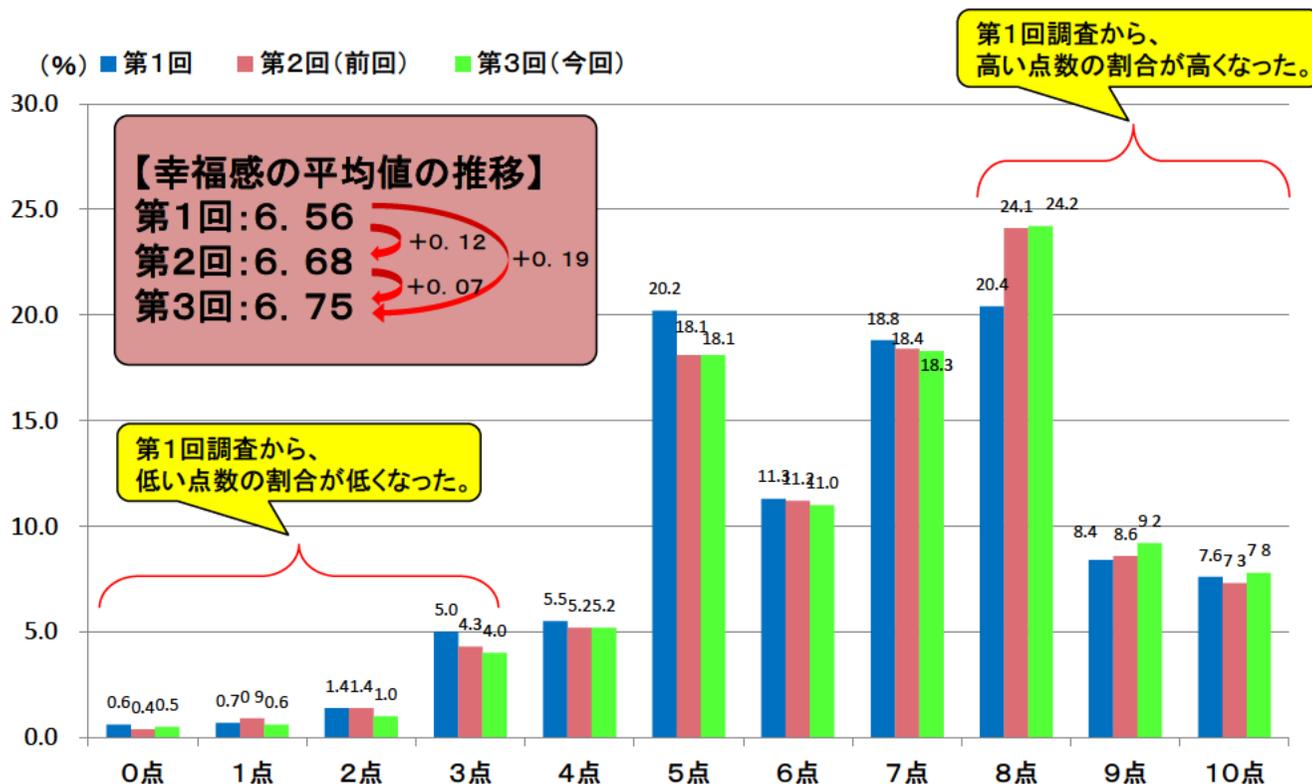
(1)幸福感 (2)地域や社会の状況についての実感 (3)生活や仕事のこと
 (4)地域や社会とのつながり (5)家族や精神的なゆとり (6)自由意見

3. 「幸福感」の推移

日ごろ感じている幸福感を、「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点として尋ねたところ、（第1回からの継続質問）

- ・ 平均値は6.75点で、前回調査より0.07点、第1回調査より0.19点 高くなった。
- ・ 前回調査よりも、「9点」の割合が0.6ポイント、「10点」の割合が0.5ポイント高くなり、「1点～3点」の割合がそれぞれ0.3ないし0.4ポイント低くなった。

日ごろ感じている幸福感の分布(推移)

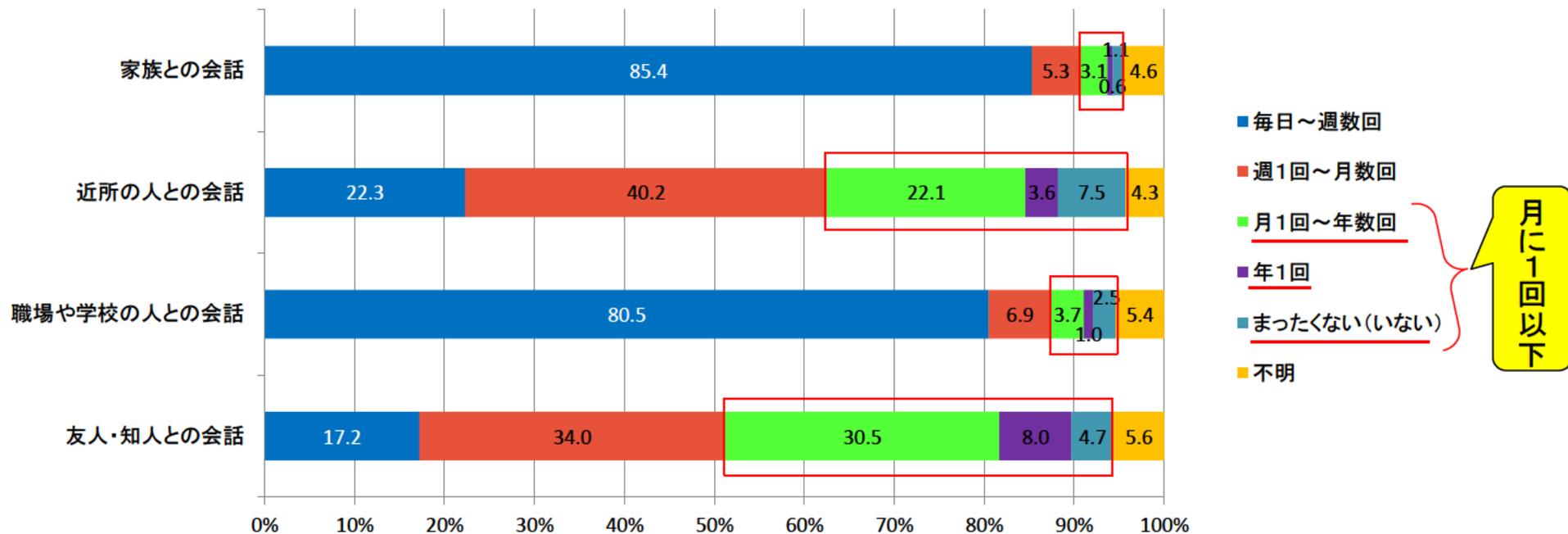


4. 会話の程度

「ふだんどの程度、家族、近所、職場や学校、友人・知人と直接会って話をしているか*」を質問したところ、会話の回数を月に1回以下と答えた人の割合が、「家族」について4.8%、「近所の人」について33.2%、「職場や学校の人」について7.2%、「友人・知人」について43.2%となった。

(※電話やメールなど対面でない場合や、店での注文など知らない人との会話は除く。)

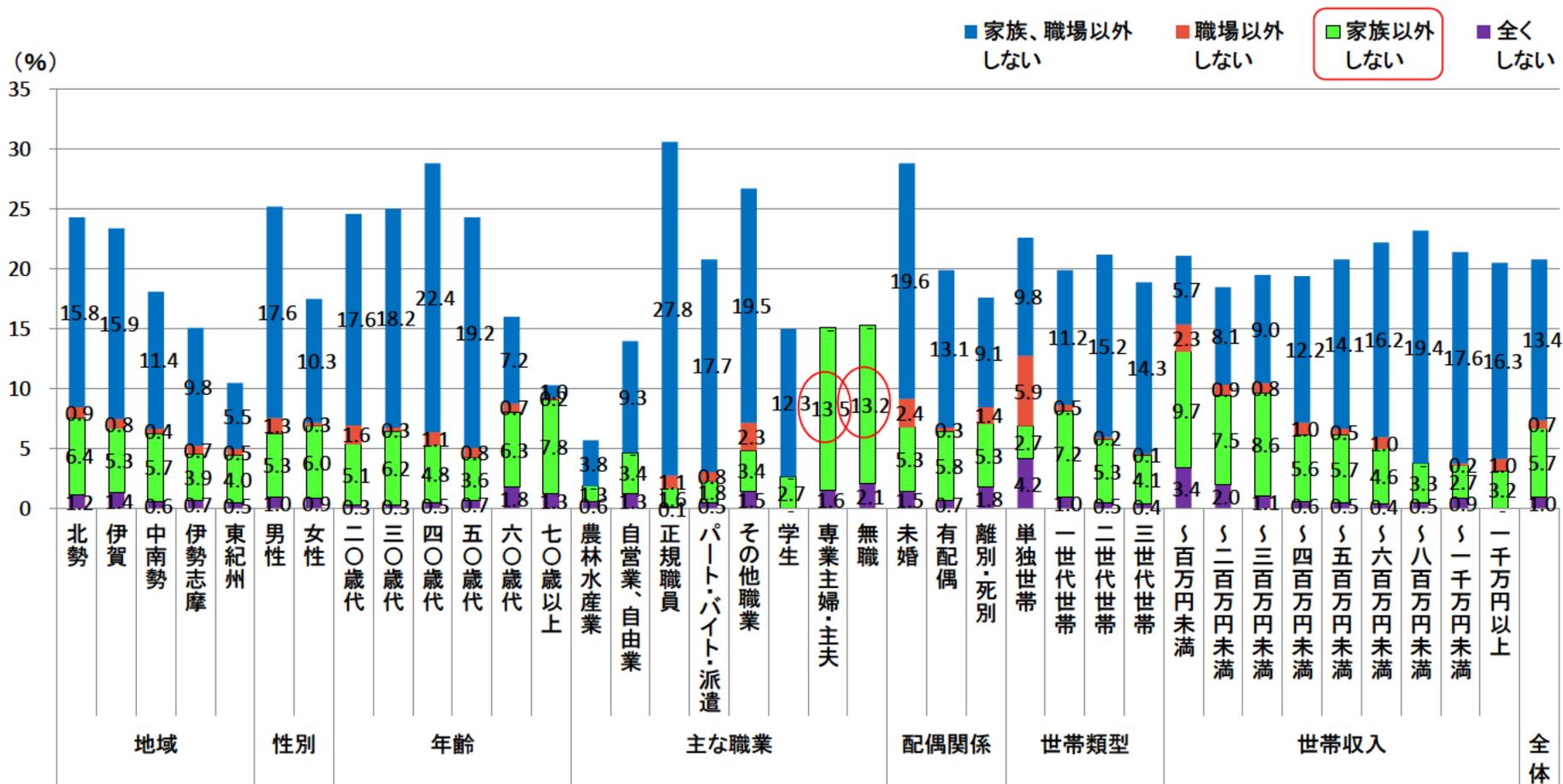
会話の程度(全体)



※「家族」、「近所の人」、「友人・知人」は有効回答者全てを対象に集計し(n=5,456)、
「職場や学校の人」は「専業主婦・主夫」、「無職」と回答した人を除いて集計した(n=3,431)。

会話の程度が「月に1回～年に数回」「年に1回」「まったくしていない（もしくはいない）」と回答した層を「ふだん会話しない層」として、属性別の結果を見てみると、家族以外と「ふだん会話しない」層（全体の5.7%）の割合は、専業主婦・主夫や無職において高くなっている。

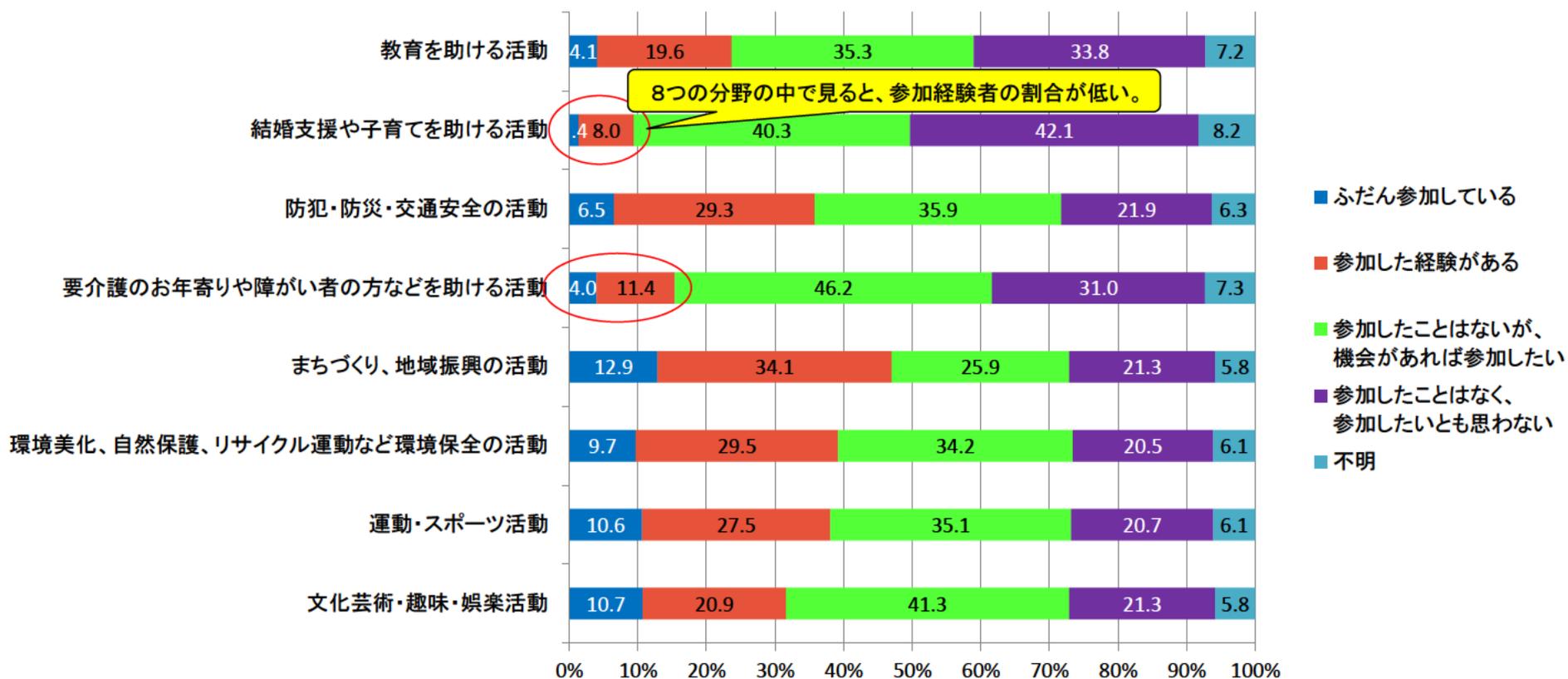
ふだん会話しない層(属性別)



5. 地域活動への参加状況と意欲

自治会やボランティア、サークル、団体などで行う活動への参加状況と意欲について、8つの分野別に質問したところ、「ふだん参加している」と「参加した経験がある」を合わせた参加経験者の割合は、「まちづくり、地域振興の活動」、「環境保全の活動」の順に高く、「結婚支援や子育てを助ける活動」が最も低かった。

地域活動への参加状況と意欲(分野別、全体)



年齢階層別に見ると、20～30歳代について、他の年齢階層に比べて参加経験者の割合が低い分野があるが、そうした分野でも、「機会があれば参加したい」という意欲を持つ人の割合は4割ほどになっている。

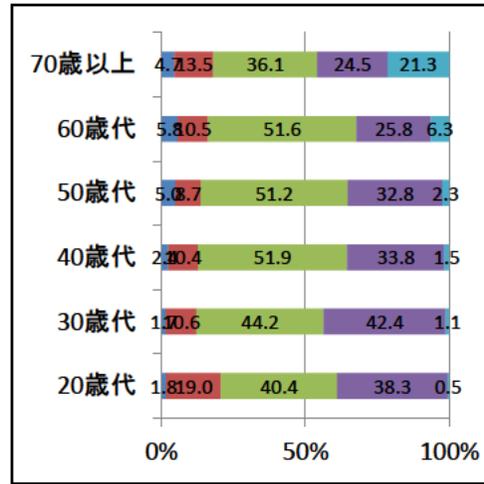
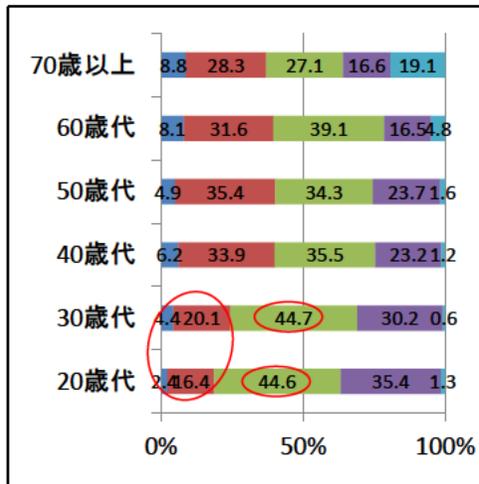
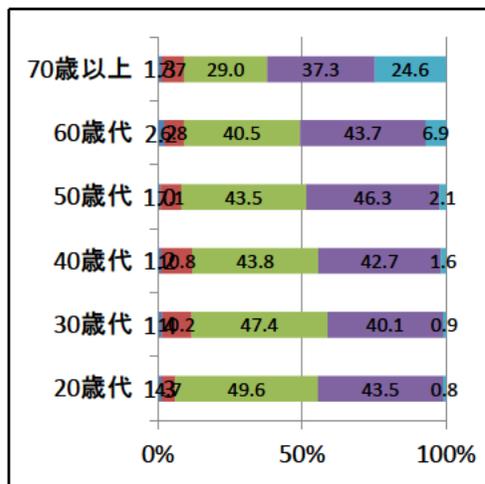
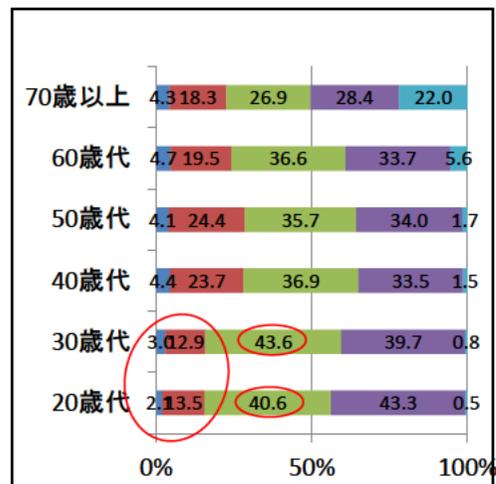
■ すでに参加している ■ 参加した経験がある ■ 参加したことはないが、機会があれば参加したい ■ 参加したことはなく、参加したいとも思わない ■ 不明

【教育を助ける活動】

【結婚支援や子育てを助ける活動】

【防犯・防災・交通安全の活動】

【要介護のお年寄りや障がい者の方などを助ける活動】

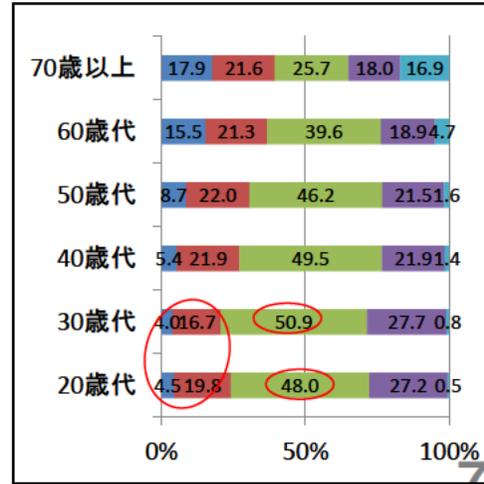
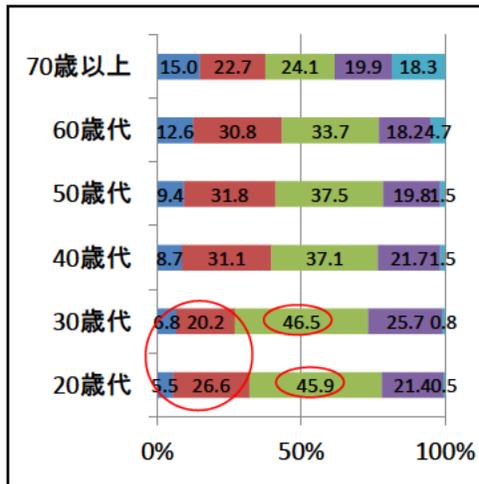
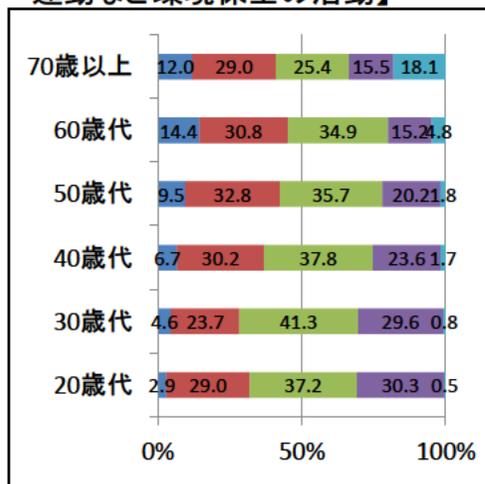
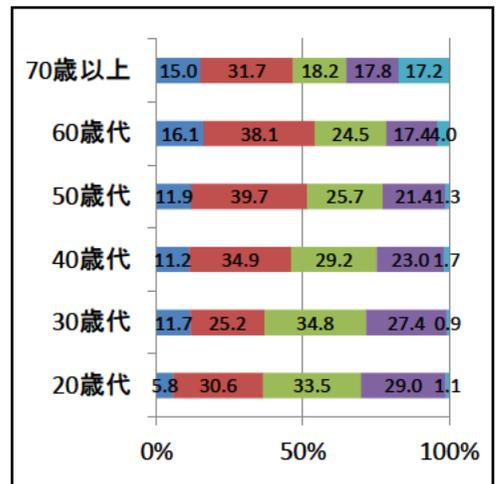


【まちづくり、地域振興の活動】

【環境美化、自然保護、リサイクル運動など環境保全の活動】

【運動・スポーツ活動】

【文化芸術・趣味・娯楽活動】

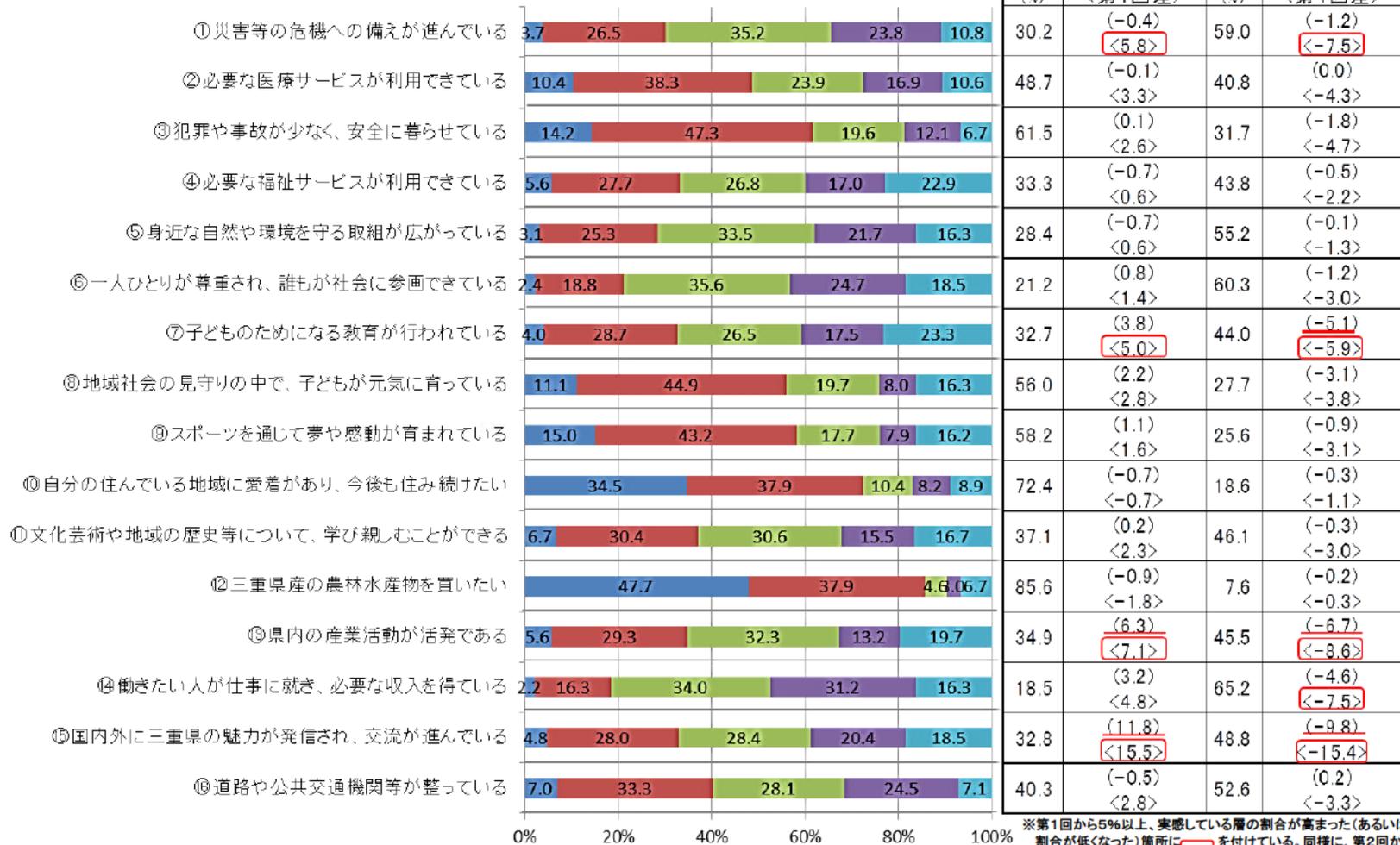


6. 地域や社会の状況についての実感

政策分野ごとに設定した16の「幸福実感指標」に対応して、生活の中の実感を継続質問したところ、「⑮魅力発信」「⑬産業活動」「①危機への備え」といった項目で、第1回から「実感している層」の割合が高くなり、「実感していない層」の割合が低くなった。

「実感している層」=感じる+どちらかと言えば感じる/「実感していない層」=どちらかと言えば感じない+感じない

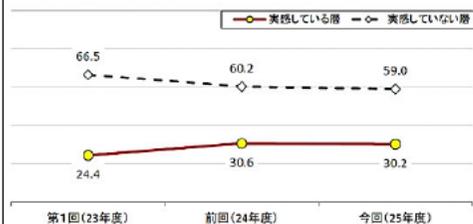
■感じる ■どちらかと言えば感じる ■どちらかと言えば感じない ■感じない ■わからない・不明



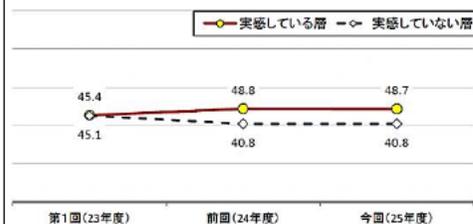
※第1回から5%以上、実感している層の割合が高まった(あるいは、実感していない層の割合が低くなった)箇所には○を付けている。同様に、第2回から5%以上となっている箇所には下線を付けている。

第1回と第3回を比較すると、全項目で「実感していない層」の割合が低くなり、ほとんどの項目で「実感している層」が高くなった。

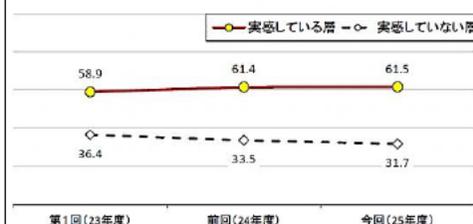
①災害等の危機への備え



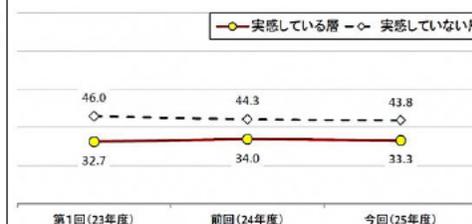
②必要な医療サービス利用



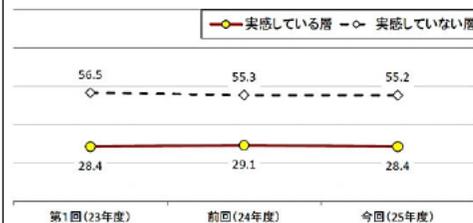
③犯罪や事故が少なく安全



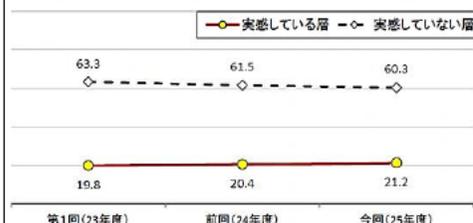
④必要な福祉サービス利用



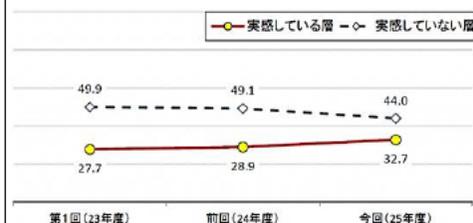
⑤身近な自然や環境を守る取組



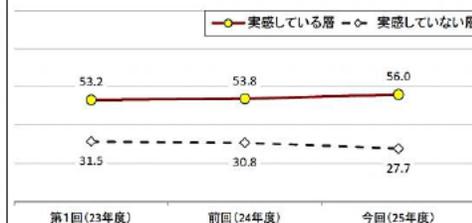
⑥一人ひとりが尊重、社会に参画



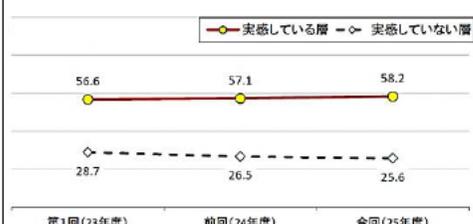
⑦子どものためになる教育



⑧地域社会の見守りの中で子育て



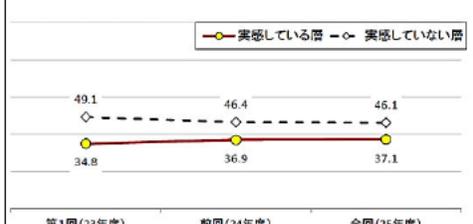
⑨スポーツを通じて夢や感動



⑩地域に愛着、住み続けたい



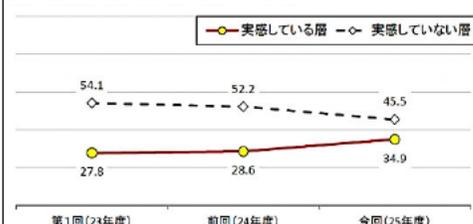
⑪文化芸術や地域の歴史に親しむ



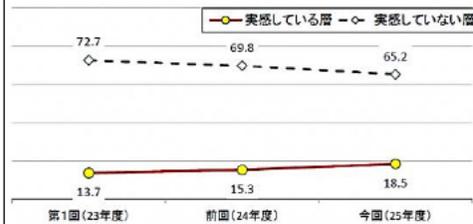
⑫県産の農林水産物を買いたい



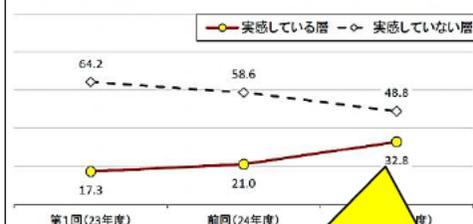
⑬県内の産業活動が活発



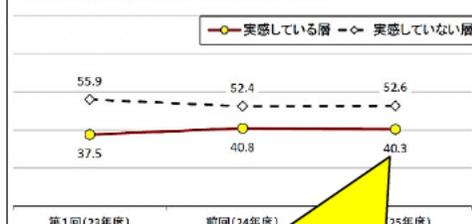
⑭働きたい人が仕事、必要な収入



⑮国内外に県の魅力発信、交流



⑯道路や公共交通機関等の整備



※「実感している層」の割合・・・「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計
 ※「実感していない層」の割合・・・「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計
 ※割合は、「わからない」や「不明(未回答など)」も分母に含めて算出。

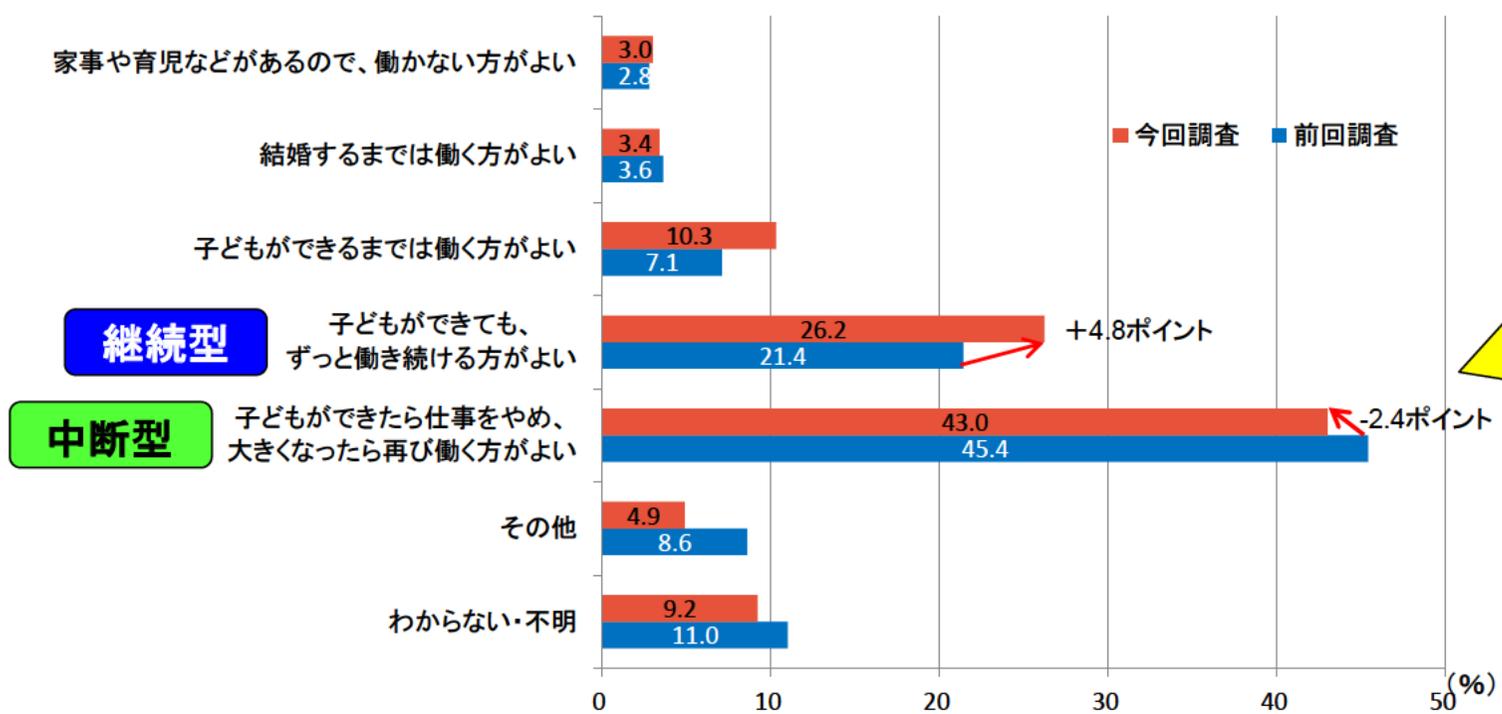
伊勢志摩の「実感している層」は全体より7.5ポイント高く、前回より16.6ポイント、第1回より23.0ポイント高くなった。

東紀州の「実感している層」は前回より9.4ポイント、第1回より20.6ポイント高くなった。

7. 女性就労についての考え方

女性が働く（収入のある仕事をする）ことについてどう思うか質問したところ、全体では、前回調査と同じく、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び働くほうがよい」という「**中断型**」を選んだ人の割合が最も高かった。

女性就労についての考え方(全体)

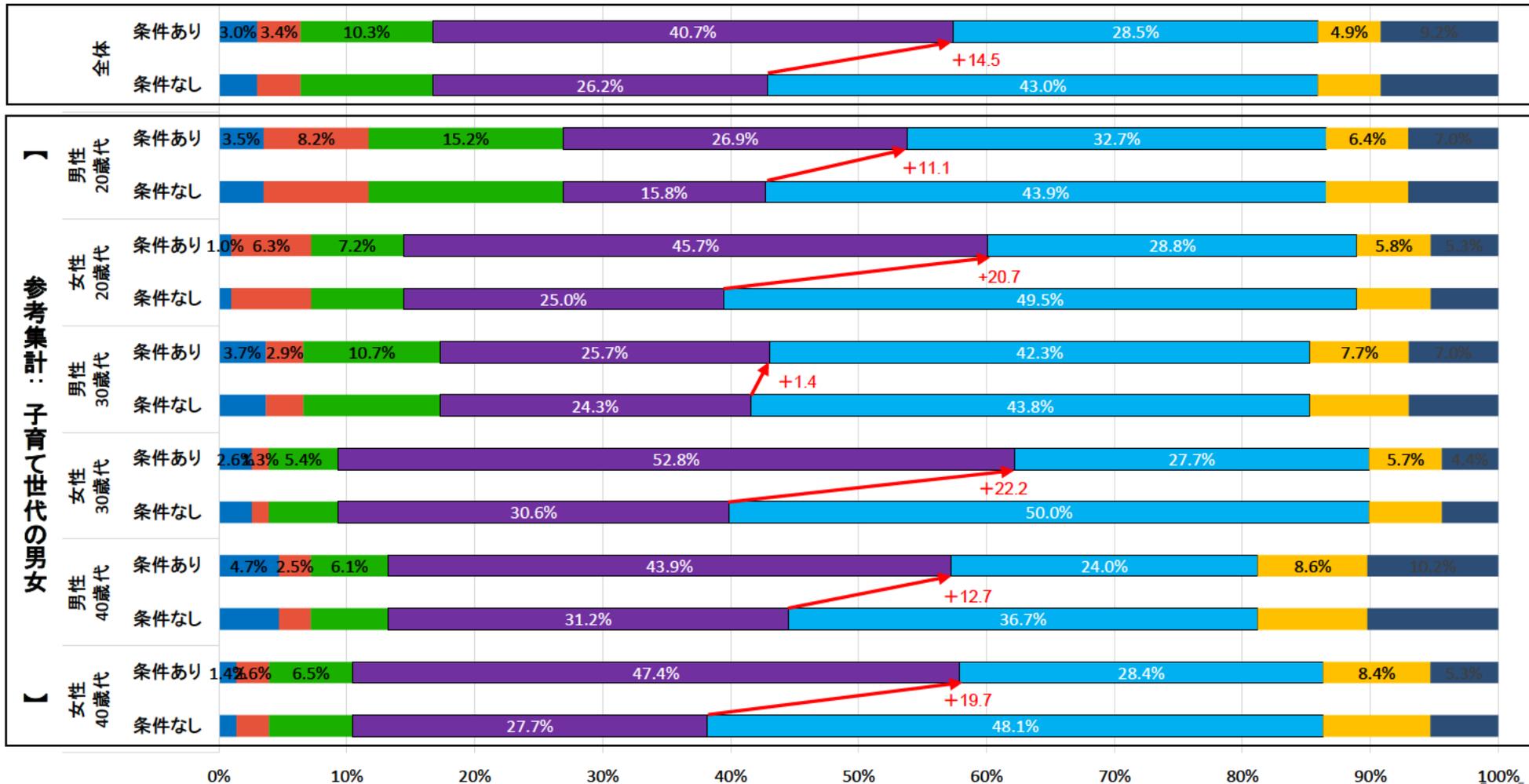


前回調査に比べて、「継続型」の割合が高く、「中断型」の割合が低くはなったが、順位に変動はなし。

⇒この結果をより深く分析するため、「中断型」と回答した人に「もし現在よりも、仕事と子育ての両立がしやすい環境にあるとするならば、どのように考えますか」という再質問を行った。(次頁)

「中断型」と答えた人に対して、「現在よりも、仕事と子育ての両立がしやすい環境にあるとするならば」という仮定条件を加えて再質問し、その回答を合わせて再集計すると、全体について「継続型」と答えた人の割合が「中断型」の割合を約12ポイント上回った。

■働かない方がよい ■結婚するまで働く ■子ができるまで働く ■「継続型」 ■「中断型」 ■その他 ■わからない・不明



【参考集計】子育て世代の男女

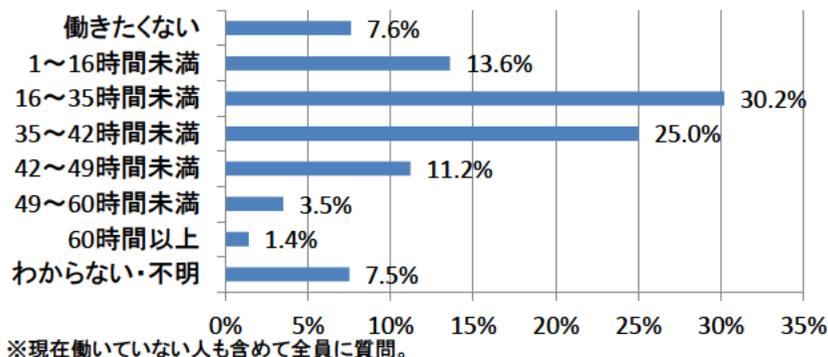
8. 希望する就業時間

「希望する時間だけ働く（収入のある仕事をする）ことができるのであれば、一週間に何時間くらい働きたいか」を質問したところ、

- ・希望する就業時間を「16～35時間未満」と答えた人の割合が最も高かった。
- ・就業時間の希望と現状を比較すると、現在の就業時間が長いほど、今よりも就業時間を「短くしたい」と希望する人の割合が高かった。

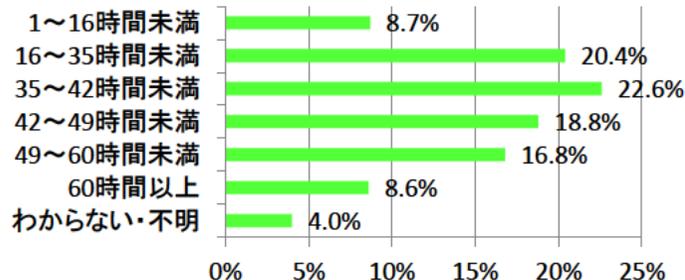
希望

希望する一週間の就業時間



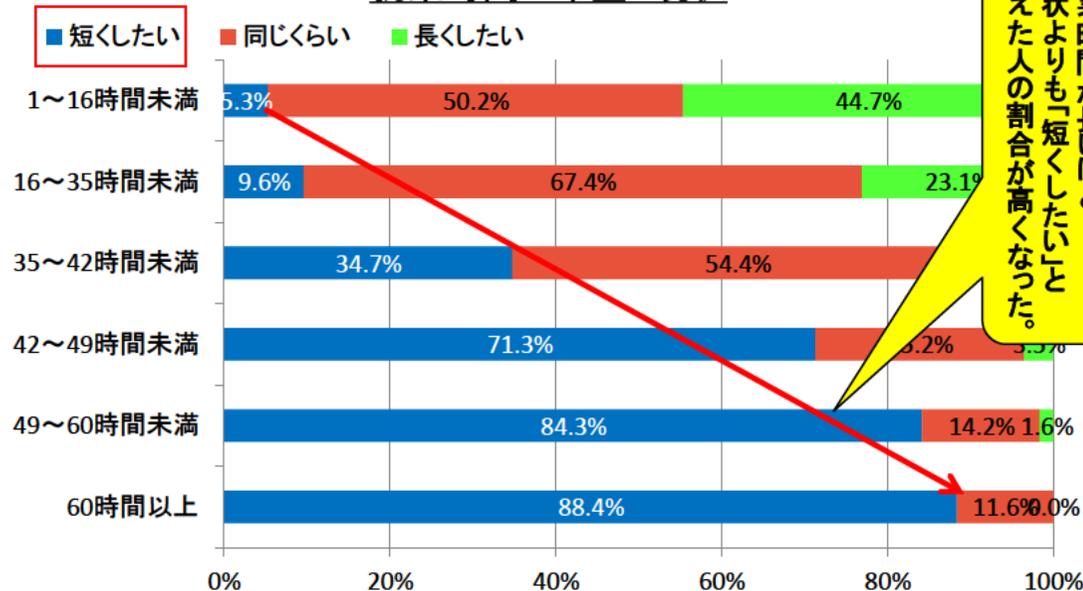
現状

一週間の平均的な就業時間



※主な職業で「農林水産業」、「自営業、自由業」、「企業、役所、団体などの正規職員」、「パート、派遣社員など」、「その他、収入のある仕事」と回答した人にも質問。

就業時間の希望と現状



就業時間が長いほど、現状よりも「短くしたい」と答えた人の割合が高くなった。

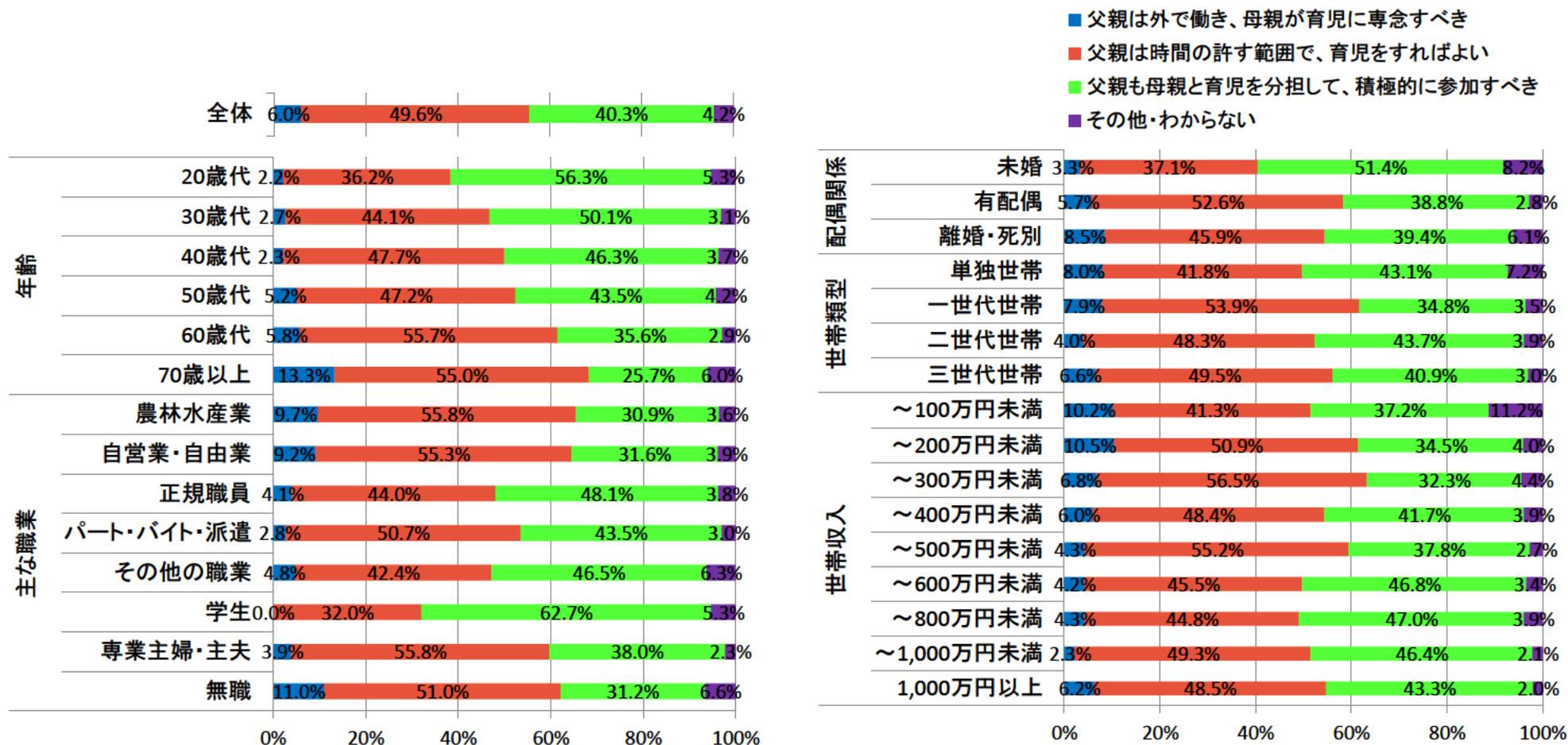
※主な職業が農林水産業、自営業・自由業、正規職員、パート・アルバイト・派遣社員、その他の職業のいずれかで、かつ現在と希望の就業時間のいずれにも「わからない」以外の回答があったものを対象に集計。(n=3,165)

※短くしたい…希望する就業時間で回答した選択肢が、現在の就業時間（問5-2）で回答した選択肢より短い区分の場合
 ※同じくらい…希望する就業時間で回答した選択肢が、現在の就業時間（問5-2）で回答した選択肢と同じ区分の場合
 ※長くしたい…希望する就業時間で回答した選択肢が、現在の就業時間（問5-2）で回答した選択肢より長い区分の場合

9. 父親の育児参画についての考え方

「父親が育児をすることについてどう思うか」を質問したところ、

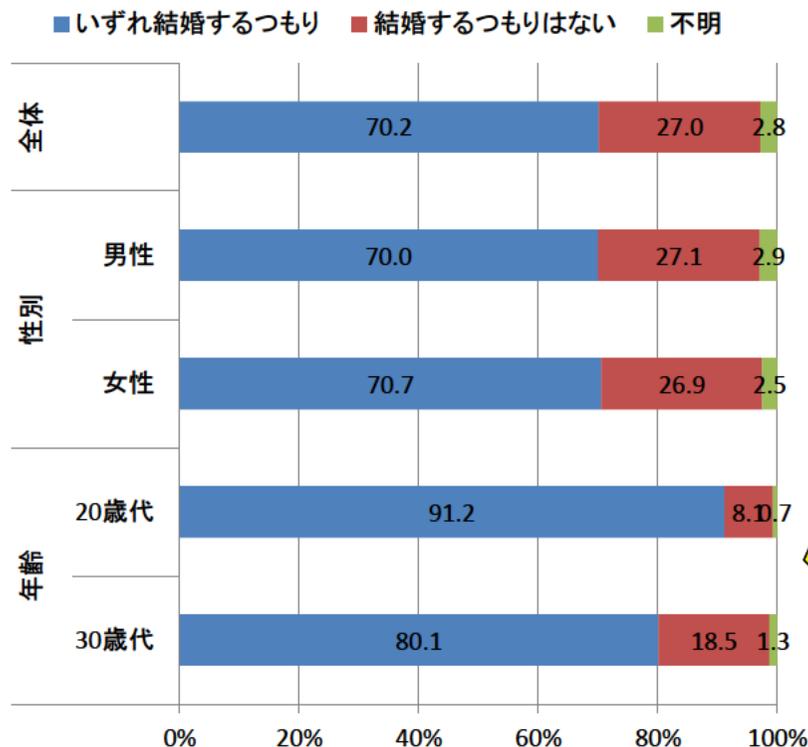
- ・全体では、「父親は時間の許す範囲で育児をすればよい」と答えた人の割合が最も高かった。
- ・20歳代と30歳代、正規職員、学生、未婚などの属性では、「父親は時間の許す範囲で～」よりも、「父親も母親と育児を分担して、積極的に参加すべき」と答えた人の割合が高かった。



10. 「結婚」と「子どもの数」

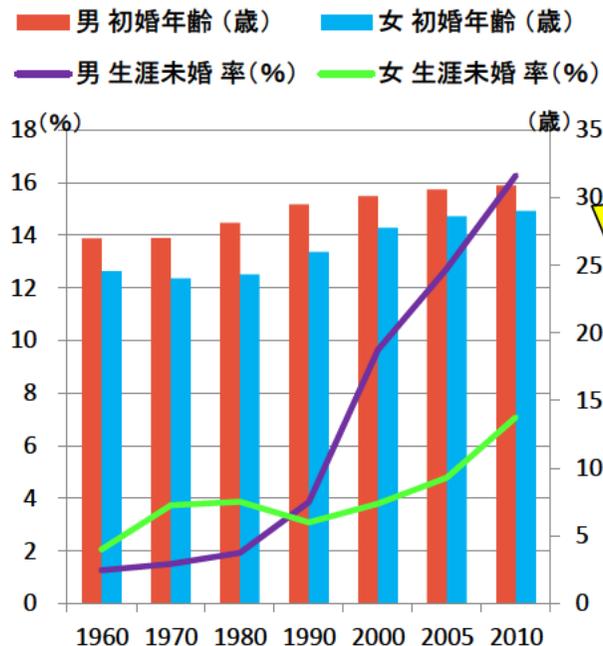
生涯未婚率と平均初婚年齢はいずれも高まりつつけているが、今後の人生を通しての「結婚に対する考え方」を質問したところ、未婚の20歳代では、9割を超える人が「いずれ結婚するつもり」と回答した。

結婚に対する考え方(未婚者、属性別)



特に若い年齢層では、結婚に前向きな考え方を持っている未婚者の割合が高い。

参考: 平均初婚年齢と生涯未婚率の推移(三重県)



平均初婚年齢と生涯未婚率は高まりつつけている。

データ出典: 国立社会保障・人口問題研究所 「人口統計資料集(2014)」

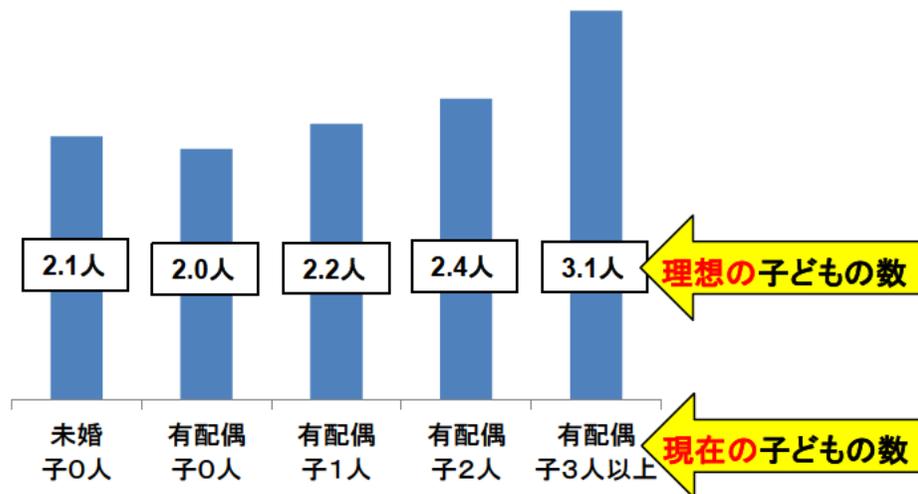
「未婚」の結婚していない理由(属性別、全体の上位7項目)

	出会いがない	理想の相手に出会えていない	収入が少ない	結婚するのはまだ早い	自分に自信が持てない	自由な生活を失いたくない	仕事に不安定
全体	47.2	40.5	30.4	29.0	23.6	23.4	12.1
地域	北勢	50.8	40.2	29.3	31.7	24.0	21.1
	伊賀	52.8	47.2	28.3	20.8	22.6	20.8
	中南勢	42.1	43.0	29.8	36.0	21.1	26.3
	伊勢志摩	42.9	37.1	37.1	17.1	27.1	27.1
	東紀州	23.1	15.4	30.8	15.4	23.1	30.8
性別	男性	54.2	37.5	41.7	27.7	22.3	20.5
	女性	38.9	43.7	17.0	30.6	25.3	26.6
年齢	20歳代	36.9	39.1	29.5	50.2	21.0	21.0
	30歳代	58.7	36.4	28.1	5.0	21.5	27.3
	40歳代	63.3	53.3	35.0	1.7	38.3	23.3
	50歳代	51.6	38.7	32.3	0.0	29.0	29.0
主な職業	自営業・自由業	41.9	41.9	58.1	9.7	22.6	29.0
	正規職員	50.2	45.3	21.8	23.5	23.5	25.5
	パート・アルバイト・派遣	49.4	38.6	36.1	14.5	27.7	28.9
	その他の職業	50.0	41.7	36.1	22.2	22.2	11.1
	学生	32.3	29.2	29.2	86.2	16.9	16.9
	無職	45.8	37.5	41.7	20.8	29.2	16.7
世帯類型	単独世帯	50.0	39.5	28.9	26.3	28.9	17.1
	一世代世帯	55.6	50.0	33.3	33.3	27.8	27.8
	二世帯世帯	46.6	42.4	32.2	25.8	20.8	24.7
	三世帯世帯	46.6	35.9	24.3	39.8	25.2	22.3
世帯収入	~100万円未満	43.8	25.0	37.5	37.5	25.0	31.3
	~200万円未満	42.9	34.3	57.1	22.9	22.9	14.3
	~300万円未満	48.3	40.0	45.0	21.7	35.0	11.7
	~400万円未満	51.6	37.1	30.6	19.4	21.0	27.4
	~500万円未満	48.2	41.1	17.9	16.1	21.4	16.1
	~600万円未満	54.3	48.6	20.0	25.7	25.7	28.6
	~800万円未満	47.8	47.8	19.6	30.4	21.7	23.9
	~1,000万円未満	45.0	47.5	35.0	35.0	22.5	40.0
	1,000万円以上	34.0	39.6	26.4	45.3	11.3	26.4

(%)

「いずれ結婚するつもり」と回答した「未婚」の人に、「現在、結婚していない理由は何ですか」と質問したところ、
 ・全体では「出会いがない」と答えた人の割合が最も高かった。
 ・女性では「理想の相手に出会えていない」が最も高かった。

子どもの数については、前回調査と同様、理想と現実のギャップが表れている。



※凡例： 第1位 第2位 第3位

※回答割合全体の上位7項目のみを記載しています。

※サンプル数が10未満の属性項目は図表に記載していません。

※離別・死別の図表は省略しています。